

新型コロナウイルスワクチン接種を受けられた皆さまへのお願い

ワクチン接種後は注射した場所の痛み、倦怠感、頭痛、発熱などがでることがありますが、1-2日後には、自然に症状が改善することがほとんどです。

処方されている解熱剤、アセトアミノフェン、イブプロフェン、ロキソプロフェンなどが含まれた市販薬から、ご自分に適したものをご利用ください。

解熱剤を飲んで1-2日様子をみた後も症状が改善しない場合、かかりつけ医などに、ワクチン接種後の反応であることを伝えて、対応を相談してください。

1. 接種した腕の痛み、腫れが多くの人で見られますが、抗体をつくるための免疫反応です。接種翌日は、腕が上がりにくい場合がありますが経過で改善します。

2. 副反応として頭痛、倦怠感、発熱などがおこることがあります。

あらかじめ市販の解熱剤・鎮痛剤を購入し準備することを推奨します。基礎疾患等があり病院通院中の方は、主治医と相談し解熱剤・鎮痛剤などを事前に処方してもらうこともご検討ください。ただし昨今の沖縄県内でのコロナ大流行下で、県内各病院の業務がかなりひっ迫しています。可能な限りご自身で薬剤の準備をお願いします。なお、琉球大学保健管理センターでは、ワクチン接種後に解熱剤などの処方を行っていません。

3. 発熱や倦怠感などの副反応が出た場合は、まず安静にしてください。症状が出た際には、早めに解熱剤や鎮痛剤を服用してもかまいません(熱が出るまえに服用してもOKです)。ワクチン接種後1-2日の発熱や倦怠感は、安静(必要あれば解熱薬)で自然に良くなることがほとんどです。

4. 接種後1-2日での発熱や倦怠感で、**救急病院を受診することは、できるだけ避けてください。**

- ワクチン接種の副反応で救急受診が増加し、病気や事故などで救急医療が必要な患者さまの負担を診療に影響が出ています。
- 予防のためのワクチン接種が、医療機関のひっ迫を急進させることにならないよう、副反応に不安がある場合は、次の沖縄県がワクチン接種の副反応などの対応のために特別に設置した「沖縄県新型コロナウイルスワクチン専門相談コールセンター」(TEL:098-894-4856 受付時間 9:00~17:00(平日・休日))で、医学的知見を求めることも可能ですので、ご活用ください。
- ただし、解熱剤を飲んでも水分や食事がとれない、息苦しいなどの症状がある場合には、かかりつけの病院や診療所で、ワクチン接種後の症状であることを伝えて、対応を相談してください。